

第30回社会福祉実践家のための臨床理論・技術研修会
2016年10月15日(土)10:00~16:30

<総合テーマ>

ソーシャルワーカーの 実践力の活性化

<オリエンテーション>10:00~10:15

研修の1日の流れ等をご説明します。

<全体ワークショップ>10:15~15:30 (途中昼休憩あり)

講師:

福山和女

(ルーテル学院大学名誉教授)

*福山先生からのメッセージは2ページに!!



<ネットワーク懇親会>15:30~16:30

研修のフィードバックと共に、ソーシャルワーカー同士のネットワーク拡大の場です。奮ってご参加ください(茶菓提供)。

主催
より

本研修会の参加者アンケートや、卒業生等からの実践に関する相談の中には、分野を超えた、複合的な課題のある人や家族への支援の課題や戸惑いが見出されます。それは、地域連携・多職種連携のあり方やネットワークづくり、地域資源開発をもっと学びたいという声からも窺えます。

福山先生は、ソーシャルワーカーがすでにもっている力・原動力をあらためて精査し、少し不足したかな...と思われるパワーを補給して臨めば、必ずよいソーシャルワーク実践が「できる!」といいます。ソーシャルワーカーの力=実践力の活性化をめざし、ストレングス視点の「濃い」ワークショップにぜひご参加ください!!

・・・全体ワークショップ講師より・・・

(10:15-15:30 *12:00-13:00昼休憩 会場：2号館2201教室)

ソーシャルワーカーの実践力の活性化

講師：福山和女（ルーテル学院大学名誉教授）

いま、社会状況が厳しくなり、経済的にも、環境的にも多くの取り組むべき課題が山積しています。人々は、生活していく上で、しっかりと土壌に足を踏ん張って生きていくための努力や工夫を日々繰り返しています。その結果、エネルギーの枯渇現象が生じることもあります。このような人々の状況と課題に真摯に向き合い、取り組んでいるのがソーシャルワーカーです。なんとか、「ソーシャルワーカーさんがいてくださって助かりました」と言ってくれるようにとの願いを持ちながら、ひとり一人、その家族、関係者、地域社会に真っ向から四つに組みあい、福利の向上をめざして専門職としての歩を、一步、一步進めています。創造性と想像性をフルに活用し、前進していく専門職として、実践力をより一層活性化させるにはどうすればよいのでしょうか。みんなでこの点を一緒に考えていきましょう。私たち、ソーシャルワーカーにはまだまだ開拓できること、開発できることがいっぱいありますね！

◆講師 福山和女（ふくやまかずめ）先生ご紹介

同志社大学卒。同大学大学院修士課程修了。カリフォルニア大学バークレイ校修士課程修了。公衆衛生学修士(MPH)。アメリカ・カトリック大学大学院博士課程修了。社会福祉学博士(DSW)。

ルーテル学院大学名誉教授、同大学院附属包括的臨床コンサルテーションセンター所長。

スーパービジョン・コンサルテーション研修では、全国各地で保健・医療・福祉の専門家たちの指導にあたっている。ソーシャルワーカーの専門性の原点に戻り、確認することに関心を持っている。



「ソーシャルワークの定義」 なぜこのような定義が必要なのでしょう？

2000年定義 →7月 IFSWの総会で採択され、2001年に日本語訳が確定。

ソーシャルワーク専門職は、人間の福利(ウェルビーイング)の増進を目指して、社会の変革を進め、人間関係における問題解決を図り、人びとのエンパワーメントと解放を促していく。ソーシャルワークは、人間の行動と社会システムに関する理論を利用して、人びとがその環境と相互に影響し合う接点に介入する。人権と社会正義の原理は、ソーシャルワークの拠り所とする基盤である。

2014年定義 →7月 IFSWの総会で採択された定義を、日本国内のSW関係団体でつくる「社会福祉専門職団体協議会」が日本語訳したもの。2015年2月に日本語訳が確定。

ソーシャルワークは、社会変革と社会開発、社会的結束、および人々のエンパワメントと解放を促進する、実践に基づいた専門職であり学問である。社会正義、人権、集団的責任、および多様性尊重の諸原理は、ソーシャルワークの中核をなす。ソーシャルワークの理論、社会科学、人文学、および地域・民族固有の知を基盤として、ソーシャルワークは、生活課題に取り組みウェルビーイングを高めるよう、人々やさまざまな構造に働きかける。この定義は、各国および世界の各地域で展開してもよい。

サリービー(Saleebey,D.)「ストレングスに着目した実践の特徴」 「ストレングスの具体的な内容」

◆ストレングスに着目した実践の特徴

- 1) 人はかけがえのないものとして定義され、特性、能力、次元はストレングスに加える。
- 2) 理論は可能性に焦点をあてる。
- 3) 語りは、その人を理解し評価するために不可欠なものであるとみなされる。
- 4) 実践者は内面的なものから理解する。
- 5) 子ども時代のトラウマは弱さと捉えられるかもしれないが、ストレングスにもなりえる。
- 6) 最も重要なことは、家族、個人、コミュニティ、環境のストレングスである。
- 7) 個人、家族、コミュニティは専門家である。
- 8) 選択、コントロール、コミットメント、人間の成長の可能性は拡大される。
- 9) 援助の社会資源は、個人、家族、コミュニティのストレングス、才能、適応能力である。
- 10) 援助の中核は、その人の人生(生活)において、価値とコミットメントを肯定し、発展すること、コミュニティに仲間をつくることである。

◆ストレングスの具体的な内容

- 1) 人びとが苦しみを対処するなかで学んできたこと
- 2) 個人の素質、特性、長所
- 3) 生活経験を通して学んできたこと
- 4) 個人の才能や潜在的な才能
- 5) 人から人への語りや言い伝え
- 6) プライド、特に「サバイバー・プライド」
- 7) コミュニティのなかにある物理的、対人関係的、制度的な豊かさ
- 8) 自己成長に必要な宗教心

<参加申込要項>

(1)開催日時 2016年10月15日(土)

- ①10:00～10:15 オリエンテーション
- ②10:15～12:00 全体ワークショップ 前半
- ③13:00～15:30 全体ワークショップ 後半
- ④15:30～16:30 ネットワーク懇親会

(2)会場 明治学院大学白金キャンパス (東京都港区白金台1-2-37)
2号館1階2201教室

(3)対象と定員

研修会の対象は、原則として現在社会福祉の諸領域にて、実践活動を行っている方です。
先着順にて受付します(定員50名)。

(4)参加費

3,000円

申込受付後、振込用紙を送付しますので、必ず事前にお振り込みください。

参加費振込後の返金には応じられませんのでご了承ください。

(5)申込方法 ***2016年9月1日(木)より、申込受付を開始いたします**

以下の所定事項①～⑦を記入し、Eメールで申込先へお送りください(FAXも可)。

折り返し振込用紙を送りますので、参加費を入金してください。

参加費入金の確認をもって申込完了となります。

入金を確認しましたら(確認には10日間ほど要します)、事務局よりEメール(またはFAX)をお送りします。

1週間以上Eメール(またはFAX)への返信(振込用紙の送付含む)がない場合はお手数ですが、TELで再連絡をお願いいたします。

振込控えが領収証となります。改めての領収証発行はできませんのでご了承ください。

研修会当日、振込控えをお持ちください。

事前に必ずお申し込みください。

<研修会申込に必要な所定事項>

- ①氏名(ふりがな)
- ②所属先と職名、所属先の所在地(都道府県名)
- ③社会福祉実践家としての実務年数
- ④振込用紙や報告書の発送先ご住所
- ⑤本申込に関する問い合わせ先としてのTEL・Eメール(またはFAX)
- ⑥社会福祉実践に関わる所持資格(例:社会福祉士・精神保健福祉士等)
- ⑦明治学院大学卒業の方は卒業年

個人情報の取扱いについて: 明治学院大学社会学部附属研究所では、申込時における個人情報について「学校法人明治学院個人情報保護方針」に副って厳重に管理いたします。これらの個人情報は、明治学院大学社会学部附属研究所の「社会福祉実践家のための臨床理論・技術研修会」ご案内用としてのみ利用いたします。第三者には提供いたしません。

<詳細・申込先>

明治学院大学社会学部附属研究所

〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37

Eメール:

issw@soc.meijigakuin.ac.jp

TEL:03-5421-5204・5205

FAX:03-5421-5205

<明治学院大学白金キャンパスへのアクセス>

- 東京メトロ南北線・都営地下鉄三田線「白金台駅」「白金高輪駅」、都営地下鉄浅草線「高輪台駅」より徒歩約7分
- JR・京浜急行「品川駅」高輪口下車、都バス「目黒駅」行で「明治学院前」下車
- JR・東急「目黒駅」東口(ロータリー側)下車、都バス「大井競馬場」行で「明治学院前」下車